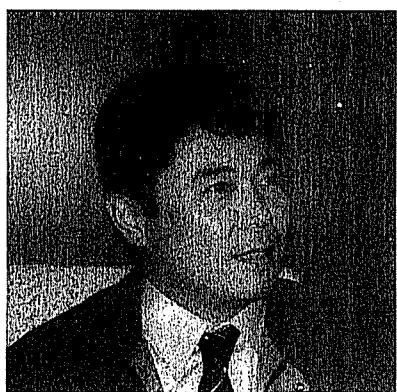


# 独自の金属処理技術で課題解決

## the metal solution

独自の金属処理技術で顧客企業の課題解決に貢献する金属技研（東京都中野区、03・5365・3050）。「the metal solution」をキーワードに、受託加工の域を超え、材料分析、構造解析から機械加工まで担う、モノづくり企業への変貌を遂げている。その成長の原動力となるのが新技術、新事業を生み出すマザー工場である神奈川工場と、05年に発足したテクニカルセンターだ。宇宙創生の礎に迫る国家プロジェクトへの参画から最先端医療を支える装置開発まで。すべてはここから始まった。

## 金属技研



テクニカルセンター長  
寺奥 拓史氏

### モノづくり力と高い解析力

「05年のテクニカルセンター発足から3年余、成果を挙げ続けています。最大の成果は、日本原子力研究開発機構（JAEA）と高エネルギー加速器研究機構（KEK）が茨城県に建設、運営する大規模加速器施設、モノづくりの中心として、高い解析力が求められるが、テクニカルセンターはこれを支えてきた。自社技術に関する情報発信も積極的に行っており、新規の顧客獲得へ向けては、積極的に参加している。06年秋には「中性子透過用薄肉アルミ箔の構造解析」および「非破壊解析装置の実用化」をANSYS、3Dプリンター、会議で発表。今春の米国の国際会議でも、金属粉末を用いた3Dプリンターの適用例を紹介した。今後、開発を加速させる技術テーマは、

「検討課題は多岐にわたるが、環境関連市場の成長性に注目している。当社の材料技術や解析技術の応用が求められる燃料電池や太陽光発電関連分野が有望ではないか」



神奈川工場長  
鈴木 康明氏

### 量でなく 質の変化を追求

「品質の取り込みが重要である。今後の成長が期待される加速器事業を推進するため、神奈川工場は重要な役割を担っている。特に国家プロジェクトへの参画は、受託加工のイメージを脱し、自社の製造技術で顧客の課題を解決する具体的な構想を追求している。また、顧客のニーズに合わせたカスタマイズも重要な要素である。今後、この分野を開拓してまいります。」

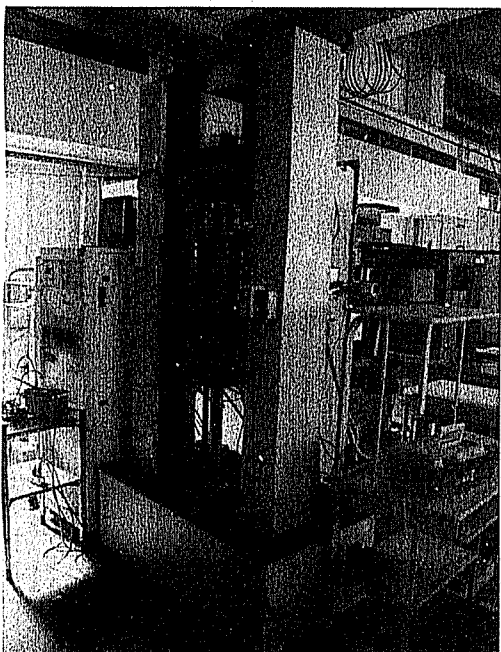
「これまでの受託加工業務から、自社の製造技術で顧客の課題を解決する。この数年、新規事業が中心に立ち上がり、当社自身、主体的な姿勢で取り組んでいる。変化の激しい事業拡大に向けて、これらを考えている。」

## 神奈川工場

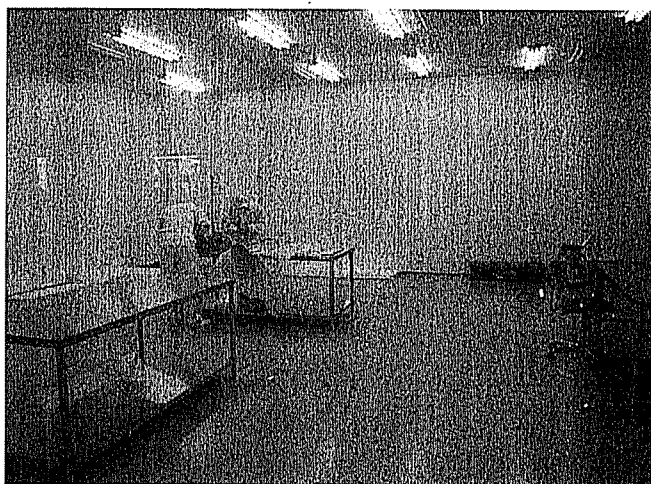
## 新事業を生み出すマザー工場

## 受託から脱却、試作開発型

### 加速器事業 提案力で勝負



テクニカルセンターに導入された、高対称性、高精度な試験装置。アルミ製の試験台の引き取り試験が可能。



神奈川工場のクリーンルーム

「05年のテクニカルセンター発足から3年余、成果を挙げ続けています。最大の成果は、日本原子力研究開発機構（JAEA）と高エネルギー加速器研究機構（KEK）が茨城県に建設、運営する大規模加速器施設、モノづくりの中心として、高い解析力が求められるが、テクニカルセンターはこれを支えてきた。自社技術に関する情報発信も積極的に行っており、新規の顧客獲得へ向けては、積極的に参加している。06年秋には「中性子透過用薄肉アルミ箔の構造解析」および「非破壊解析装置の実用化」をANSYS、3Dプリンター、会議で発表。今春の米国の国際会議でも、金属粉末を用いた3Dプリンターの適用例を紹介した。今後、開発を加速させる技術テーマは、

「検討課題は多岐にわたるが、環境関連市場の成長性に注目している。当社の材料技術や解析技術の応用が求められる燃料電池や太陽光発電関連分野が有望ではないか」

「品質の取り込みが重要である。今後の成長が期待される加速器事業を推進するため、神奈川工場は重要な役割を担っている。特に国家プロジェクトへの参画は、受託加工のイメージを脱し、自社の製造技術で顧客の課題を解決する具体的な構想を追求している。また、顧客のニーズに合わせたカスタマイズも重要な要素である。今後、この分野を開拓してまいります。」

「これまでの受託加工業務から、自社の製造技術で顧客の課題を解決する。この数年、新規事業が中心に立ち上がり、当社自身、主体的な姿勢で取り組んでいる。変化の激しい事業拡大に向けて、これらを考えている。」

## 頭脳活用、先端分野に挑む

### J-PARCに真空散乱槽納入

「05年のテクニカルセンター発足から3年余、成果を挙げ続けています。最大の成果は、日本原子力研究開発機構（JAEA）と高エネルギー加速器研究機構（KEK）が茨城県に建設、運営する大規模加速器施設、モノづくりの中心として、高い解析力が求められるが、テクニカルセンターはこれを支えてきた。自社技術に関する情報発信も積極的に行っており、新規の顧客獲得へ向けては、積極的に参加している。06年秋には「中性子透過用薄肉アルミ箔の構造解析」および「非破壊解析装置の実用化」をANSYS、3Dプリンター、会議で発表。今春の米国の国際会議でも、金属粉末を用いた3Dプリンターの適用例を紹介した。今後、開発を加速させる技術テーマは、

「検討課題は多岐にわたるが、環境関連市場の成長性に注目している。当社の材料技術や解析技術の応用が求められる燃料電池や太陽光発電関連分野が有望ではないか」

## テクニカルセンター

## 設計・解析含め一貫したモノづくり

「品質の取り込みが重要である。今後の成長が期待される加速器事業を推進するため、神奈川工場は重要な役割を担っている。特に国家プロジェクトへの参画は、受託加工のイメージを脱し、自社の製造技術で顧客の課題を解決する具体的な構想を追求している。また、顧客のニーズに合わせたカスタマイズも重要な要素である。今後、この分野を開拓してまいります。」

「これまでの受託加工業務から、自社の製造技術で顧客の課題を解決する。この数年、新規事業が中心に立ち上がり、当社自身、主体的な姿勢で取り組んでいる。変化の激しい事業拡大に向けて、これらを考えている。」